

2021年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2022年 4月 30日

和光大学地域連携研究センター
センター長 倉方 雅行 殿

代表者氏名 高坂康雅

研究プロジェクトの名称 大学を中心とした地域の不登校支援ネットワークの構築				
研究目的 本申請プロジェクトでは、大学を中心として、地域にいる不登校の子ども、不登校の子どもを抱える親・家庭、不登校の子どもの支援を行う者(教師、支援者など)、不登校など困難を抱える子どもの支援を行うことを志望している学生などが相互につながり、不登校に対する情報交流とより良い支援を行うための連携・協力を行うためのネットワークを構築することを目的とする。				
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)				
高坂康雅	教			

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)
①適応支援室「いぐお〜る」の運営 2021年4月12日(月)より毎週月曜日・火曜日の週2回、9時30分から15時30分の6時間、適応支援室「いぐお〜る」を開室し、地域の不登校児童生徒10名程度の支援及び保護者・関係者等への助言を行った。
②町田市不登校の親の会「いぐぷらす」の開催 2022年1月22日(土)にぽっぽ町田にて開催し、15名程度の不登校の子をもつ親が参加し、交流・情報交換を行った。 ※当初予定では2021年度に4回開催予定であったが、コロナ禍のため1回の開催にとどまった。 ※町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」は開催できなかった。
③不登校に関する講演 2021年7月3日(土)に町田みのり高等部にて、2021年11月14日(日)に八洲学園中等部にて、不登校に関する講演を行い、適応支援室「いぐお〜る」の活動などについて紹介した。

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

本プロジェクトの2021年度の主な活動は適応支援室「いぐお〜る」の開室と、町田市不登校の親の会「いぐぷらす」の開催、町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」の開催であった。しかし、コロナ禍のため「いぐぷらす」の開催は1回にとどまり、「いぐあるふぁ」は開催することができなかった。

適応支援室「いぐお〜る」は2021年度から週2回の開室となり、これまでより数名多く不登校児童生徒を受け入れることができた。また、2021年度は4月から継続して開室することができ、不登校児童生徒の居場所として機能するとともに、対人コミュニケーションや適応に関して一定の支援が行えた。同時に、保護者に対しても継続的な面談を行い、通室生のアセスメントやそれをもとにした助言等も行った。適応支援室「いぐお〜る」は、不登校支援の重要な資源として、町田市のなかでも認知されてきている。町田市教育委員会のスクールソーシャルワーカー(SSW)や各学校に配置されているスクールカウンセラー(SC)からの紹介も多く、また多摩市、稲城市、横浜市などからも通室・問い合わせ等がある。これらから、現在の活動を継続することが、不登校状態・傾向の児童生徒とその保護者、学校、地域においても求められていると考えられる。

一方で、学校・教員、医療機関等関係機関との情報共有や連携が十分にできているとはいえず、また、不登校の子をもつ親の交流の場となる「いぐぷらす」も開催が1回しかできなかったことから、地域の不登校支援ネットワークの構築には、さらなる工夫が必要になると考えている。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2021年4月～2022年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

特になし。

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2022年4月30日（土） 提出先=企画室企画係(岡本) kikaku@wako.ac.jp(企画係)